

ビール麦新品種「ヤチホゴールド」の育成

1. 試験のねらい

栃木県のビール麦生産量は全国第1位であり、ビール麦は土地利用型の重用作物に位置づけられている。ところが、近年ビール麦生産地帯には大麦縞萎縮病が蔓延し、現在も大きな被害をもたらしている。栃木分場で昭和60年に育成されたミサトゴールドは大麦縞萎縮病抵抗性品種として大麦縞萎縮病による産地崩壊の危機を救ったが、現在では麦芽品質面で問題ができており、実需者から計画的な作付けの削減を求められるまでになっている。また、昭和62年には大麦縞萎縮病抵抗性高品質品種としてミカモゴールドが育成され、ミサトゴールドに変わって、普及することが期待された。ところが、品質面では最高水準の特性をもつミカモゴールドは収量性の点でミサトゴールドに劣っており期待通りには普及していない。そのため、ミサトゴールド並の収量性をもち、ミカモゴールド並の麦芽品質を備えた新品種を目標に育成を進めてきた。

2. 育成の経過

この系統は昭和58年5月に農業試験場栃木分場において大系R2067{(Mona×新田二条1号)F₁×新田二条1号}を母とし、栃系144(後のミサトゴールド)を父として人工交配を行い、昭和59年にF₂で大麦縞萎縮病現地圃場において耐病性系統を選抜、以降派性系統育種法で選抜固定を図ってきたものである(図-1)。育種目標は高品質、大麦縞萎縮病およびうどんこ病耐病性である。昭和61年度より生産力検定予備試験、昭和63年度より系統適応性検定試験、特性検定試験に供試した結果、成績が良好であったので、平成2年度に関東二条27号と命名して生産力検定試験および奨励品種決定調査に供試した。その結果、平成4年12月に二条大麦農林15号として登録され、ヤチホゴールドと命名された。

3. 特性の概要

ヤチホゴールドは播種程度Ⅲ～Ⅳをもったあまぎ二条並の中生種で、耐倒伏性はあまぎ二条よりまさる。収量性はミサトゴールドと同程度か優れる多収品種である。麦芽品質ははるかな二条およびミカモゴールドと同程度の極良質であり、大麦縞萎縮病およびうどんこ病に高度に抵抗性である(表-1)。

なお、栽培上の注意として遅播きすると成熟期が遅れるので、その地域の播種適期のはじめに播種することが好ましい。また早刈りによって品質が低下する場合があるので、適期収穫につとめるとともに、殻皮が薄く剥皮しやすいので脱穀調整に留意することが必要である。

4. 成果の要約

ビール麦新品種ヤチホゴールドはミサトゴールド並の収量性とミカモゴールド並の麦芽品質を合わせもった品種で、あまぎ二条並の中生種である。本品種は大麦縞萎縮病およびうどんこ病に抵抗性であり、麦芽品質は極良、多収であるので、本品種の普及により本県におけるビール麦の生産振興を図ることができる。(担当者 栃木分場 宮川三郎)

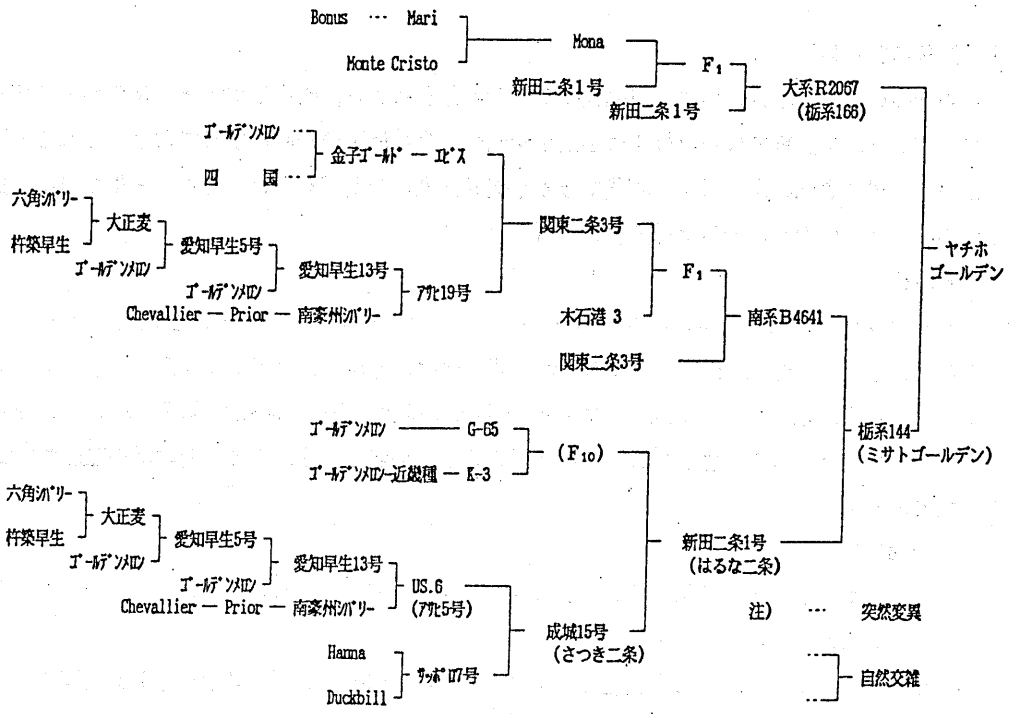


図-1 ヤチホゴールデンの系譜図

表-1 調査成績 (栃木分場水田標準栽培 昭和63年~平成2年度 3カ年平均)

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	耐倒	子実重	同左	整粒重	標比	千粒重	整粒	蒴莖	うどんこ	麦芽
	月・日	月・日	cm	cm	本/m ²	伏性	kg/a	%	kg/a	%	g	%	縮病	病	品質
ヤチホゴールデン	4.27	6.6	95	6.8	483	やや強	43.2	126	41.2	154	44.8	95.3	極強	極強	71.8
あまぎ二条	4.26	6.6	85	7.2	522	やや弱	34.3	100	26.8	100	39.6	81.1	弱	中	50.8
はるな二条	4.21	6.1	87	6.0	595	中	36.4	106	30.5	114	39.5	84.8	やや弱	やや弱	71.3
ミサトゴールデン	4.21	6.3	91	6.4	511	強	41.0	120	37.1	139	43.6	90.6	極強	やや弱	57.9
ミカモゴールデン	4.21	6.3	86	6.0	593	中	35.6	104	27.6	103	37.9	78.7	極強	弱	69.5